

令和7年度病害虫発生予報第8号（12月予報）概要表

令和7年11月26日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
1 水稻の冬期防除対策		
(1) スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）		
2 麦類の播種前防除対策		
(1) コムギなまぐさ黒穂病		
(2) 黒節病（オオムギ黒節病、コムギ黒節病）		
(3) 縞萎縮病		
(4) オオムギ斑葉病		
(5) シロトビムシ類		
3 トマト（冬春栽培）		
(1) 灰色かび病		並
(2) 黄化葉巻病		やや多
(3) コナジラミ類		やや多
4 いちご（本ば）		
(1) 灰色かび病		やや少
(2) うどんこ病		並
(3) アザミウマ類		並
(4) アブラムシ類		並
(5) ハダニ類		並
(6) コナジラミ類		やや多
5 茶の冬期防除対策		
(1) チュウゴクアミガサハゴロモ		

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和 7 年度病害虫発生予報第 8 号（1 2 月予報）

令和 7 年 1 1 月 2 6 日
埼玉県病害虫防除所

1 水稻の冬期防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
スクミ リンゴガイ (ジャンボ タニシ)	・土壌が乾燥して固い厳寒期に、トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転速度を速くし、土壌を貝ごと細かく砕くようにして耕うんする。 ・貝は大部分が土中深さ 6cm 未満で越冬する。深い耕うんは貝を土中に埋め込み、越冬を助長する可能性があるため、耕うん深度を 6cm 程度と浅くする。 ・未発生ほ場への貝の持ち込みを防止するため、発生ほ場で使用したトラクターに付着した泥はしっかりと洗浄する。 ・暖冬により本種の越冬個体数は増加するため、冬期の気温が高いことが予測される場合は発生ほ場における耕うんの回数を増やす。

2 麦類の播種前防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
コムギ なまぐさ 黒穂病	・種子伝染するため、種子更新を行うとともに種子消毒を実施する。 ・土壌伝染する場合もあるため、前作で発生したほ場では作付けを控える。 ・オオムギとコムギでは、なまぐさ黒穂病の病原菌が異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
黒節病	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1)を参考に、適期防除を実施する。 ・自家採種種子を使用する場合は、必ず種子消毒し、播種適期内で播種時期を遅らせる。
縞萎縮病	・播種後の土壌水分が多く、地温が高いと感染が増大するため、排水対策を実施する。 ・オオムギとコムギでは、縞萎縮病の病原ウイルスが異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
オオムギ 斑葉病	・発生後に使用できる薬剤はないため、播種前に種子消毒を実施する。 ・遅まきは発生を助長するため、昨年発生ほ場では早めの播種を心がける。
シロトビムシ 類	・発生後に使用できる薬剤はないため、常発地では、播種前に種子消毒を実施する。 ・遅まきは発生を助長するため、昨年発生ほ場では早めの播種を心がける。

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

3 トマト（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○11 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か高い、降水量は少ない（－）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。
黄化葉巻病	やや多	○11 月中旬の発生量：やや多 □12 月のコナジラミ類の発生量：やや多（＋）	
コナジラミ類	やや多	○11 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は平年並か高い（＋）	・ハウスに防虫ネットを張るなど、外部からの侵入防止対策を徹底する。 ・本虫はトマト黄化葉巻病ウイルスを媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・施設周辺の除草を徹底する。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 いちご（本ぽ）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	やや少	○11 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か高い、降水量は少ない（－）	・多湿により助長されるため、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○11 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か高い、降水量は少ない（±）	・草勢の衰えや茎葉の繁茂により助長されるため、適切な肥培管理を行う。
アザミウマ類	並	○11 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は平年並か高い（＋）	・ミツバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。
アブラムシ類	並	○11 月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は平年並か高い（＋）	
ハダニ類	並	○11 月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は平年並か高い（＋）	
コナジラミ類	やや多	○11 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は平年並か高い（＋）	
【共通注意事項】			
・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・生物農薬（天敵）を使用している場合は、影響がないように薬剤の選択に注意する。			

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 茶の冬期防除対策

病虫害名	防除上注意すべき事項
チュウゴク アミガサ ハゴロモ	・ 10 月 9 日に発表した「注意報第 8 号」(参照 2) を参考に防除対策を実施する。 ・ 11 月 13 日に発表した防除情報 (参照 3) を参考に、産卵された枝の切除と適切な処分を行う。 ・ 本種のふ化は翌年の 3 月頃に始まると予測されるため、産卵された枝はそれまでに適切に対処する。

参照 2：令和 7 年度病虫害発生予察注意報第 8 号

「植木類・チャ・果樹類・宿根アスター等、チュウゴクアミガサハゴロモ」(令和 7 年 10 月 9 日)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r7-8.html>

参照 3：「チュウゴクアミガサハゴロモが多発しています！」(令和 7 年 11 月 13 日)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20251113cha.html>

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風の無い日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム（農林水産省）](#) から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+) は助長または促進、(-) は抑制、(±) は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和7年11月20日発表)

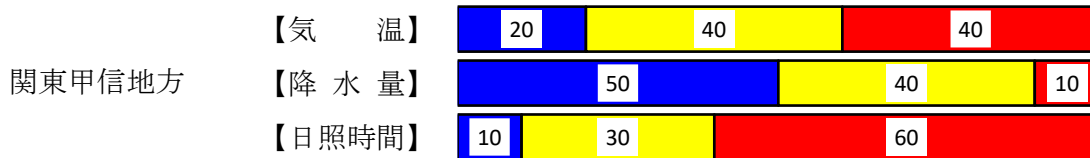
出典: 気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html)

<予報のポイント>

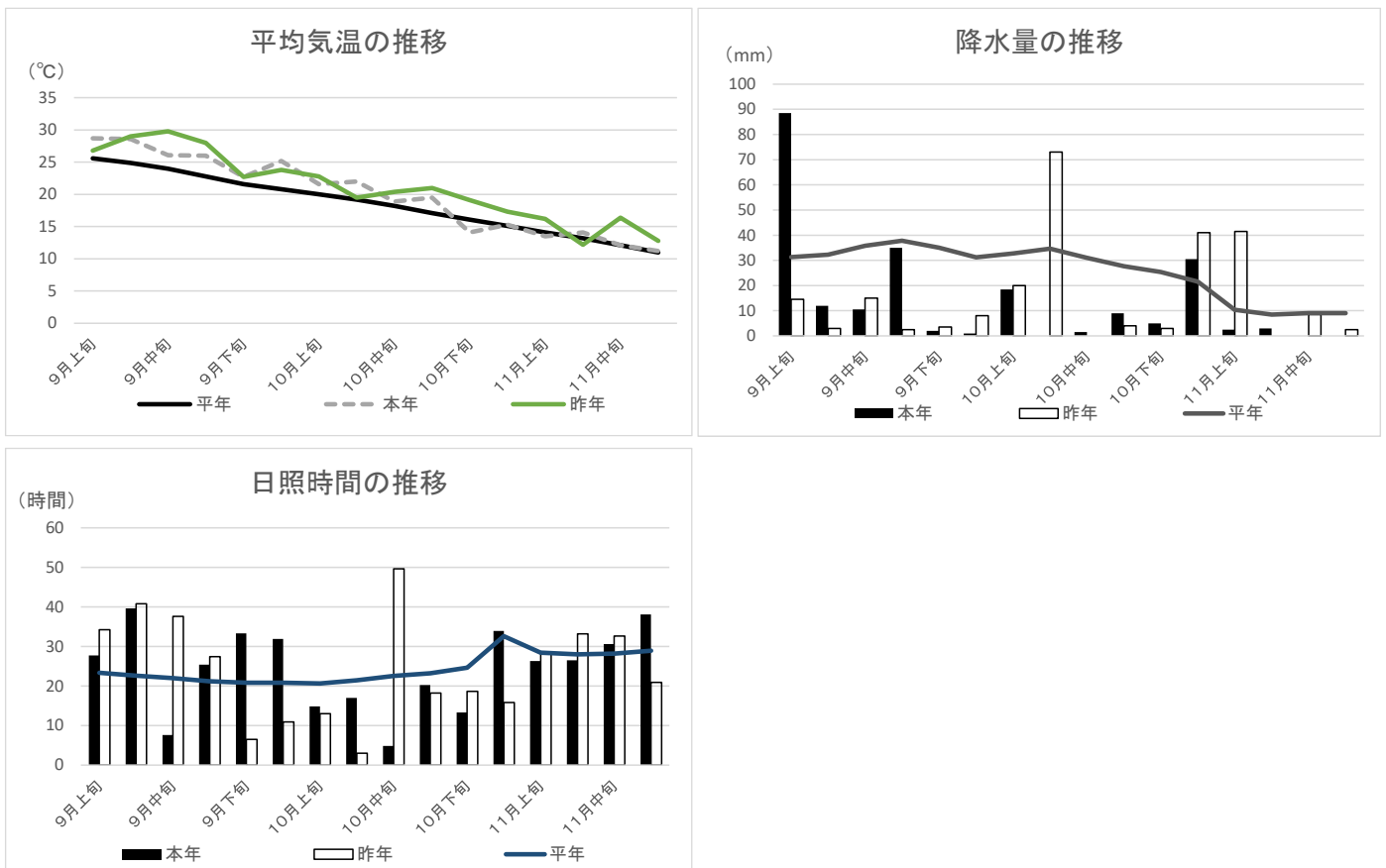
- ・寒気の影響を受けにくいため、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。
- ・移動性高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先

埼玉県病虫害防除所

〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784

電話: 048-539-0661 FAX: 048-539-0663

E-mail: k3603114@pref.saitama.lg.jp

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>